

短報

湖産コペポータ *Acanthodiaptomus pacificus* の産卵数について

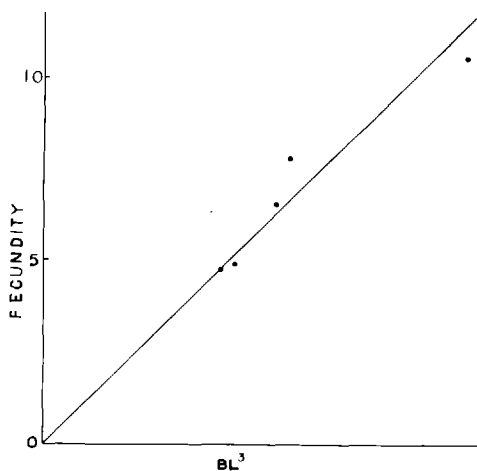
Acanthodiaptomus pacificus は本邦の山間の湖や池沼に非常に多く、ヒメマスの主要な餌の一つとして考えられている。

筆者はこの種の個体群動態の研究の一環として、その産卵数について観察を試みたのでその結果を報告する。

その生息地の一つとしてよく知られている支笏湖では、4月にふ化して、6月末にコペポディドに変態し、9~11月、主として10月に産卵する。個体群の令期はかなりよく揃っている。産み出された卵は雌の体にしばらくかかえられているが、やがて脱落して湖底に沈み、そこで越冬する。

産卵が一回のみで終るのか、2回あるいはそれ以上行われるのかは、現在、いづれとも断定できない。ただ卵をかかえた個体が出現してから、それが消失するまでの時が比較的短いこと、卵をかかえている個体の体内には少数の例外を除いて検鏡下で卵の存在が認められないこと、また産卵した個体では赤色にいろどられた油球が体内から殆ど消失し(卵へ移行したと考えられる)、いわゆるスペントの様相を呈している、等の理由から1回の産卵で終る可能性が高いと考えられる。このことは将来飼育によって確かめなければならない。

また、卵は体外に産み出されてから雌の腹部の下、側方に卵囊につつまれることなく懸垂されているため、その一部が脱落しても、それが起ったかどうかを知ることができない。このことから卵数を実際より少く推定する可能性がある。



Acanthodiaptomus の産卵数と体長の3乗との関係。

実際より少い方に偏った推定をしている可能性があるにせよ、このように少数の産卵はこの種の自然死亡が被食によるものを含めて大きくないことを示唆している。

なお、この種の性比は支笏湖で1972年10月11日採集の標本を検した結果では、雌325対雄325で雌雄同数であった。(石田 昭夫)

Acanthodiaptomus の卵は親の体の大きさにくらべて、きわめて大型で、その代り数が少ないのが特徴である。

手持の然別湖、中禅寺湖および支笏湖の標本について、卵数、頭胸部長、卵径を測定した結果を表に示した。この表から明らかなように、卵数は然別湖の6~17、平均10.4を最高に、近年の支笏湖のように2~8、平均4.71という少さである。同じ支笏湖でも年によって変動がみられるのは興味がある。卵数の分布が4、6、8、10と偶数個のものが多くは卵巣が左右対になっていることによるのであろう。卵径は中禅寺湖のものがかなり低い値を示す他は大体0.13mmと一定している。

体長の大きいものは卵の数も多い傾向がみられるので、体の大きさ(頭胸部長の3乗)と卵数とを比較すると図に示したように両者は大体直線関係になっている。卵径が異なる中禅寺湖のものもこの線上にのるのはおかしいが、大まかな傾向としてこの関係があるということは正しいであろう。

表. *Acanthodiapotomus pacificus* の卵数頻度分布と平均頭胸部長および卵径

場 所	然 別 湖	中 禪 寺 湖	支 笏 湖	支 笏 湖	支 笏 湖
年 月 日	1967-16-30	1967-8-29	1964-9-25	1971-10-26	1972-10-11
卵 数				4	12
頻 度				2	20
分 布		2	1	40	67
		3	2	22	31
	14	10	5	32	54
	1	2	5	3	6
	4	3	6	1	1
	4		5		
	14	1	3		
	6	1	2		
	9				
	3				
	8				
	2				
	2				
	1				
平均卵数	10.4	6.45	7.72	4.86	4.71
平均頭胸部長 mm	1.15	0.94	0.96	0.88	0.86
" 卵 径 mm	0.127	0.118	0.127	0.130	0.130